

11 試験研究

林業試験場試験研究課題

試験研究項目	研究期間	研究内容	担当研究室
1 県産材の需要拡大に関する研究			
(1) 県産スギ板材の表面処理技術に関する研究	H28～30	スギ内装材のキズ発生を抑制できる表面処理技術（うづくり加工、表層圧密）を開発する。	木材利用
(2) 伐採木材（CLT）の高度利用技術の開発 （農林水産委託プロジェクト研究）	H25～29	国産材の新たな活用策として注目されているCLT等クロスパネルの開発、性能評価を行う。	木材利用
(3) スギ一般大径材を活かした心去り製品の開発	H25～29	スギ大径材の価値の向上と利用拡大を図るため、スギ一般（並材）大径材を使った新たな心去り製品の生産技術を開発する。	木材利用
(4) 現場施工が容易なユニット式耐力壁の開発	H28～30	スギ厚板を用いた耐力壁の施工の簡素化・効率化・工期短縮が可能な「ユニット式耐力壁」を開発する。	木材利用
(5) 直交層を挿入した新しいLVLの住宅用部材としての性能に関する研究	H27～29	県産材LVL（単板積層材）の用途開発による県産材製品の需要拡大を図るため、直交層を挿入して強度性能を高めた新たなLVL製品を開発する。	木材利用
(6) 燃料用木質バイオマスの水分管理技術に関する実証試験	H27～29	スギC・D材のエネルギー利用を促進するため、発電用を主とする原木の水分低減の予測など効果的管理方法の実証を行うとともに、チップ化後の効果的な水分低減の管理技術の実証を行う。	木材利用
(7) 住宅内装製品への県産広葉樹材の活用に関する研究	H29～31	県内産広葉樹材を内装製品（フローリング、壁板等）として活用するため、材質に対応した加工技術を改良・開発する。	木材利用
(8) スギ材の効率的な葉枯らし乾燥システムの開発	H29～31	鳥取県林業試験場が改良・開発した「応力波伝搬時間（以下、SPT）」の計測技術を応用した葉枯らし乾燥期間の調査及び簡易な計測手法の開発を行う。	木材利用
2 健全で豊かな森林づくりに関する研究			
(1) 山地災害リスクを回避・軽減する現地判定技術の開発	H28～32	森林・林業の現場となる山地の潜在的な危険度を把握する技術、及び山地危険度に対応した作業システム（路網・架線等）の選択技術を開発する。	森林管理
(2) 低コスト再造林・保育技術の確立	H26～30	再造林にかかる経費を低減する植栽方法・保育手法を検証し、コスト低減が可能な造林・保育技術を確立する。	森林管理
(3) 高齢広葉樹林（ナラ類、シイ・カン類）の萌芽更新技術の確立	H28～32	高齢・大径化したナラ類を主とする広葉樹林の萌芽力試験等を行い、広葉樹林を適切に循環利用する萌芽更新技術を確立する。	森林管理
(4) 特用樹木の効率的増殖技術の開発	H28～30	里山や耕作放棄地での植栽・栽培が期待される特用樹木（トチノキ、クワ、コウゾ等）について、さし木による優良品種の効率的な増殖技術を開発する。	森林管理

試 験 研 究 項 目	研究期間	研 究 内 容	担当研究室
(5) ハイブリッド無花粉スギの創出	H24～33	既存の材質強度、耐虫性および耐雪性品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高いスギ造林品種を創出する。	森林管理
(6) 初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験	H27～31	初期成長が優れた「コンテナ苗」の生産技術を確立するとともに、現地植栽における活着率・初期成長の向上による「伐採～地拵え～植栽」の「一貫作業システム」づくりに係る実証試験を行う。	森林管理
(7) 早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験	H29～33	早生樹を利用した短伐期林業の技術体系化に必要な育苗・育林技術開発、及び有用広葉樹の育林技術を確立する。	森林管理
(8) ドローンを使った森林現況解析及び架線集材におけるリードロープ架設の実証試験	H29～30	ドローンによる所有林境界や森林現況の解析試験、及び架線集材用リードロープの運搬・架設試験を行う。	森林管理